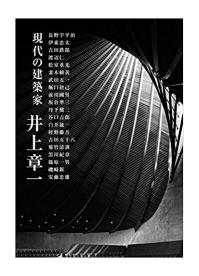
#### 



■井上章一(国際日本文化センター教授)さんは、1955 年京都府生まれ。 主な著書は、霊柩車の誕生、法隆寺への精神史、伊勢神宮、つくられた桂離宮神話、京都ぎらい、パンツが見える、美人論、阪神タイガースの正体、関西人の正体、など多数。法隆寺・伊勢神宮・桂離宮の謎を文献学として詳細に解きあかしている方ですが、学会の無視に立腹。その後は日本文化論が多かったのですが、GAにて久しぶりの建築本。日本文化論も建築論も視点がすごくおもしろくて、専門分野にとらわれない広い視点でいつも書いている方だと思います。

# ■本書で取り上げている建築家20人

長野宇平治・伊東忠太・吉田鉄郎・渡辺仁・松室重光・妻木頼黄・武田五一 堀口捨己・前川國男・坂倉準三・丹下健三・谷口吉郎・白井晟一・村野藤吾 吉田五十八・菊竹清訓・黒川紀章・篠原一男・磯崎新・安藤忠雄

\*

#### ■ささやかな前口上から

白く軽やかなモダニズムの建築は貧相でたよりなく感じられた。19世紀ネオバロックの現物をこの目で眺め、これはあなどれないなと感じた。ヨーロッパの古い都市の歴史的建造物に酔うような感覚を味わった。西洋美術・音楽も同じ。20世紀のとんがったこころみは、美術を不幸なところに追い込んだなと痛感する。そう私は古いのだ。今建築家たちはどこへ向かおうとしているのかを考える。そんな文章を、古い建築にこだわりつつ、これからも書きついでいくつもりである。

# ■伊東忠太~ロマンティックにアラベスク~

伊東は、より国際的であった。ユーラシア全域の中で日本建築のことを考えようとして いたのがよくわかる。タウトやコンドルとの関係、平安神宮・築地本願寺・旧震災祈念 堂を取り上げながら、ぬきんでておもしろい人物だと思っている、と言っています。

### ■吉田鉄郎~保存をめぐる政治学~

JR 東京駅前・東京中央郵便局は局舎の3割ほどは昔のままのこされることとなった。今 建っているビルにまつわるうるわしい政治決着が語られています。大阪中央郵便局はとり こわされた。タイルとサッシ、その割り付けだけでも保存に値した。市民をおきざりに しては保存要請の理屈とはならないが。井上氏は、保存されている旧京都中央電話局上 分局・伊勢市の旧山田郵便局電話事務室(現在フレンチレストラン)などをとりあげて、 市井の人に愛されることを多としたいと言っています。

# ■あとがきから

建築家を論じるこの本でも、彼らがくりひろげる、浮世ばなれした物言いには、とり こまれないようにしよう。そこへ歩みよるさいにも、社会からのながめはわすれまい。

#### ■その他の本から

法隆寺・・・中央に膨らみのある柱と、非対称の伽藍配置についての謎に絞った文献学。 伊勢神宮・・唯一神明造にまじりけのない日本の固有性は感じられない。井上流神宮論。

桂離宮・・・時代の流れが人間の感受性を左右する。つくられた桂離宮神話について。

自由貸出可(黒野)





